



# 協議会での検討事項と 今後の進め方

令和2年7月6日  
庄内川河川事務所

1. 流域治水プロジェクト(仮称)について	・・・P3
2. 庄内川流域治水協議会について	・・・P4
3. 令和元年東日本台風が庄内川流域を直撃していたら	・・・P6
4. 愛知県区間の浸水想定区域(想定最大規模)	・・・P7
5. 岐阜県区間の浸水想定区域(想定最大規模)	・・・P8
6. ハード対策例	・・・P9
7. ソフト対策例	・・・P11
8. 協議会での検討事項と今後の進め方	・・・P13

# 1. 流域治水プロジェクト(仮称)について

## 【背景】

- 令和元年東日本台風をはじめ、平成30年7月豪雨や平成29年九州北部豪雨等、近年激甚な水害が頻発。
- さらに、今後、気候変動による降雨量の増大や水害の激甚化・頻発化が予測。
- このような水災害リスクの増大に備えるために、河川・下水道等の管理者が主体となって行う対策に加え、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、その河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」への転換を進めることが必要。

流域治水プロジェクトを示し、ハード・ソフト一体の事前防災対策を加速していくことが、国土交通省「総力戦で挑む防災・減災プロジェクト」において示される。



流域治水協議会

## 【目的】

- 流域全体で緊急的に実施すべき流域治水対策の全体像を「流域治水プロジェクト」として策定・公表し、流域治水を計画的に推進

## 2. 庄内川流域治水協議会について 1/2

### 【協議会の目的】

近年、令和元年東日本台風をはじめとした激甚な水害が発生するなど、気候変動により、水害が激甚化・頻発化している。

このため、庄内川流域において、あらゆる関係者が協働して「流域治水」（流域全体で水害を軽減させる治水対策）を計画的に推進するための協議・情報共有を行う。

### 【協議会の実施事項】

- 1 庄内川流域で行う流域治水の全体像の共有・検討。
- 2 河川に関する対策、流域に関する対策、避難・水防等に関する対策を含む、「庄内川流域治水プロジェクト（仮称）」の策定と公表。
- 3 「庄内川流域治水プロジェクト（仮称）」にもとづく対策の実施状況のフォローアップ。
- 4 その他、流域治水に関して必要な事項。

## 2. 庄内川流域治水協議会について 2/2

### 協議会の構成員

機関	構成員	
	役職	氏名
多治見市	市長	<small>ふるかわ まさのり</small> 古川 雅典
瑞浪市	市長	<small>みずの こうじ</small> 水野 光二
恵那市	市長	<small>こさか たかね</small> 小坂 喬峰
土岐市	市長	<small>かとう じゅんじ</small> 加藤 淳司
名古屋市	市長	<small>かわむら</small> 河村 たかし
瀬戸市	市長	<small>いとう やすのり</small> 伊藤 保徳
春日井市	市長	<small>いとう ふとし</small> 伊藤 太
清須市	市長	<small>ながた すみお</small> 永田 純夫
あま市	市長	<small>むらかみ こうじ</small> 村上 浩司
大治町	町長	<small>むらかみ まさお</small> 村上 昌生
岐阜県	県土整備部長	<small>ふなさか なるひこ</small> 船坂 徳彦
岐阜県	都市建築部長	<small>おおの まさよし</small> 大野 真義
愛知県	建設局長	<small>かまた ゆうじ</small> 鎌田 裕司
国土交通省	庄内川河川事務所長	<small>にしだ まさと</small> 西田 将人

※敬称略

### 3. 令和元年東日本台風が庄内川流域を直撃していたら

○大型の台風19号が庄内川流域を直撃していたら、東海豪雨やH23.9洪水の規模を上回る想定最大規模に匹敵する大雨となっていた可能性。  
 ※雨域を移動させただけの単純な試算

■ 枇杷島地点(清須市西枇杷島地先)上流域を直撃した場合

24時間*累計雨量	
東海豪雨	353mm
台風19号が庄内川流域を直撃した場合	511mm
想定最大(L2)規模	578mm

約1.4倍  
 ほぼ同等

\* 庄内川の洪水に影響を与える降雨の時間

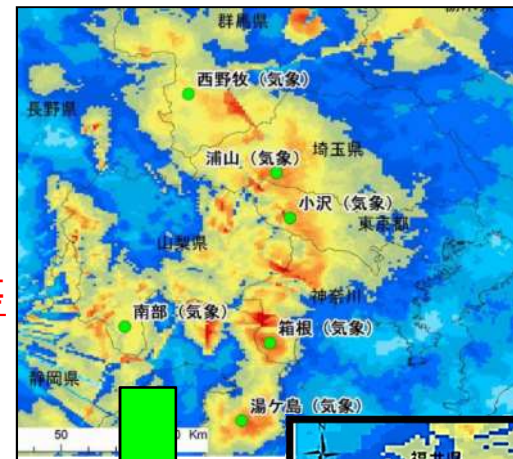
■ 多治見地点(多治見市豊岡地先)上流域を直撃した場合

24時間*累計雨量	
H23.9洪水	220mm
台風19号が庄内川流域を直撃した場合	587mm
想定最大(L2)規模	637mm

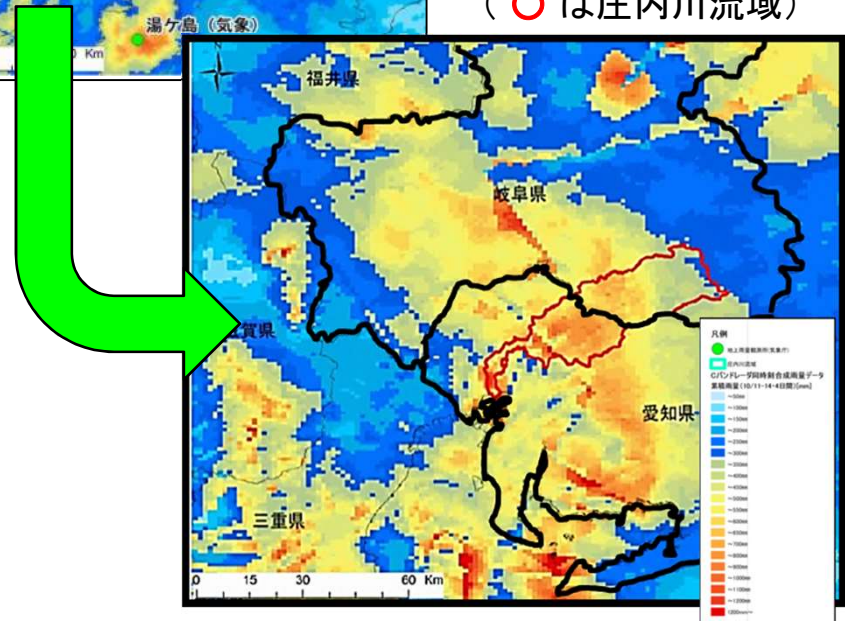
約2.7倍  
 ほぼ同等

\* 庄内川の洪水に影響を与える降雨の時間

■ 国土交通省レーダ雨量(R1.10.11 0時~10.15 0時)



■ 台風19号の大雨が庄内川流域で降った場合 (○は庄内川流域)



## 4. 愛知県区間の浸水想定区域(想定最大規模)

浸水想定区域図(想定最大規模)では・・・

- 決壊箇所から平野部に広がるように氾濫し、鉄道駅(JR駅)等が浸水する等、ライフラインに大きな影響が生じる。
- 名古屋駅は約3m浸水し、駅へのアクセスや駅からの移動が困難。
- 1階部分が浸水する公共施設が存在する。

### 被害諸量(堤防決壊) (想定最大規模)

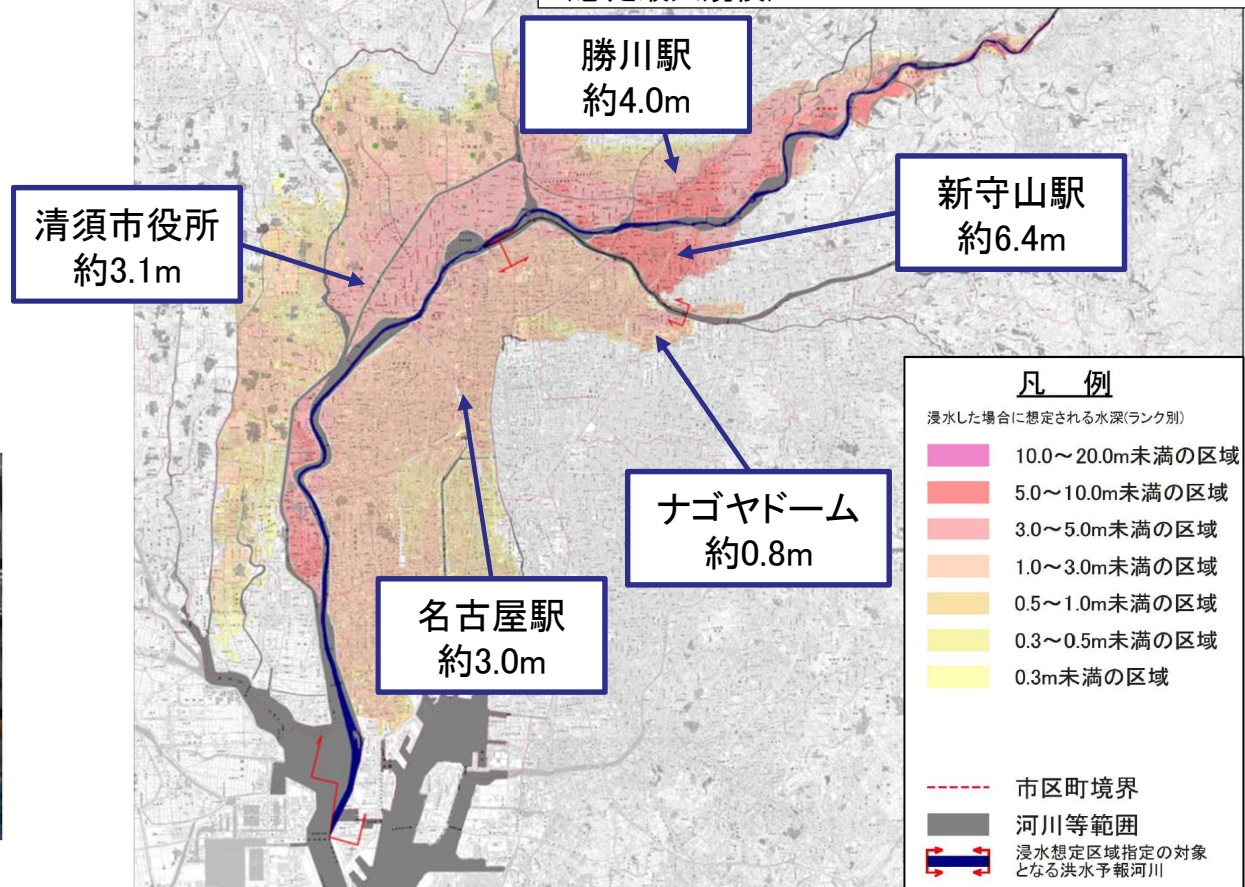
浸水面積	約1.6万ha
被害人口	約112万人
被害額	約21兆円
浸水家屋数	床上 約44万戸 床下 約4万戸

※愛知県内全域



※名古屋駅前の浸水イメージ

庄内川水系庄内川・矢田川 洪水浸水想定区域図  
(想定最大規模)



## 5. 岐阜県区間の浸水想定区域(想定最大規模)

浸水想定区域図(想定最大規模)では・・・

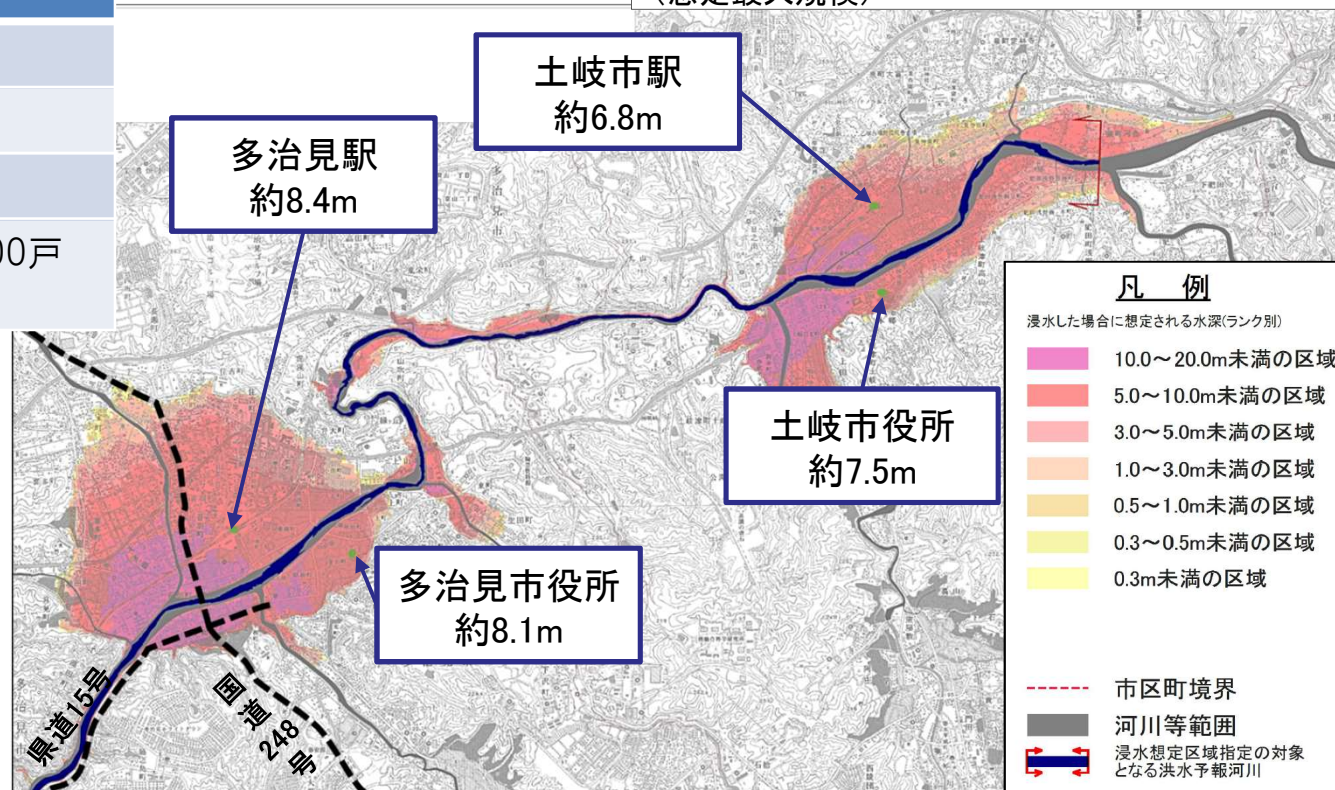
- 岐阜県区間において、国道248号や県道15号(名古屋多治見線)等の主要道路が浸水する等、ライフラインに大きな影響が生じる。
- 多治見駅は約8.4m、土岐市駅は約6.8m浸水し、駅へのアクセスや駅からの移動が困難。
- 1階部分が浸水する公共施設が存在する。

### 被害諸量(堤防決壊) (想定最大規模)

浸水面積	約1000ha
被害人口	約3万人
被害額	約1.4兆円
浸水家屋数	床上 約1万2,000戸 床下 約240戸

※岐阜県内全域

庄内川水系庄内川(土岐川)洪水浸水想定区域図  
(想定最大規模)





## 6. ハード対策例(堤防整備)

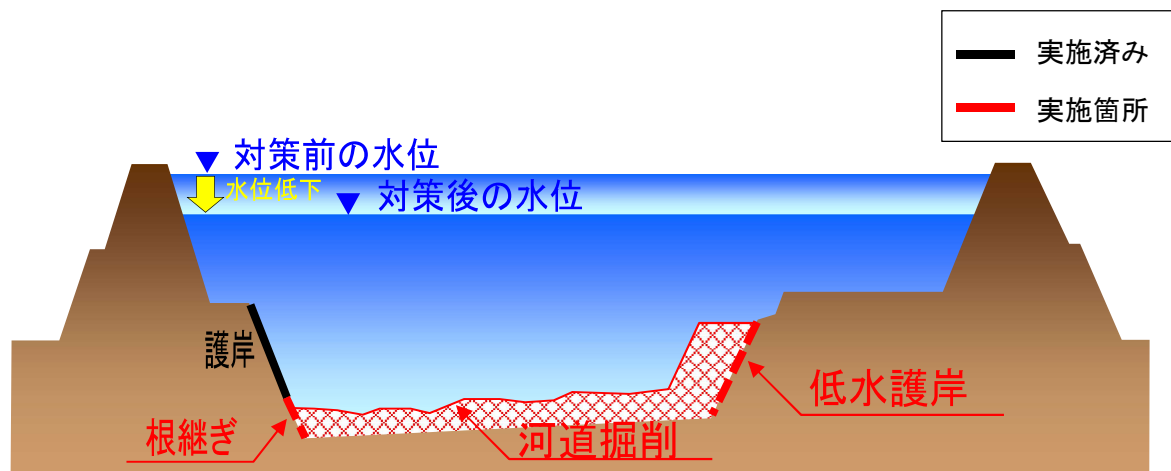
○小田井地区、山田地区、上条地区、青木地区において堤防整備を行い、堤防の安全性を向上させる。



— 実施済み  
— 実施箇所

## 6. ハード対策例(河道掘削)

○平成12年9月の東海豪雨と同規模の洪水を安全に流下させるため、河道断面が不足している区間の河道掘削を実施。



河道掘削のイメージ



河道掘削の施工イメージ

# 7. ソフト対策例(プッシュ型配信)

緊急速報メールを活用した洪水情報の配信プッシュ型配信イメージ



## <メール配信の文案>

氾濫危険情報【警戒レベル4】 河川氾濫のおそれがあるとき	氾濫危険情報【警戒レベル5】 河川氾濫が発生したとき	
<p>【件名】氾濫のおそれ</p> <p>警戒レベル4相当</p> <p>庄内川で氾濫のおそれ</p> <p>枇杷島(清須市)付近で河川の水位が上昇、氾濫が発生する危険があります。</p> <p>自治体からの情報を確認し、安全確保を図るなど速やかに適切な防災行動をとってください。今後、氾濫が発生すると、避難が困難になります。</p>	<p>【件名】氾濫発生 <span style="color: yellow;">※破堤の場合</span></p> <p>警戒レベル5相当</p> <p>庄内川で氾濫が発生</p> <p>〇〇市〇〇地先(〇〇側)で堤防が壊れ、河川の水が住宅地などに押し寄せています。</p> <p>命を守るための適切な防災行動をとってください。</p>	<p>【件名】氾濫発生 <span style="color: yellow;">※越水の場合</span></p> <p>警戒レベル5相当</p> <p>庄内川で氾濫が発生</p> <p>〇〇市〇〇地先(〇〇側)付近で河川の水が堤防を越えて住宅地などに押し寄せています。</p> <p>命を守るための適切な防災行動をとってください。</p>

# 7. ソフト対策例(リスクライン)

○観測所地点の水位から上下流連続的な水位をリアルタイムで計算し、堤防の高さと比較することで危険度を表示する「水害リスクライン」により、災害の切迫感をわかりやすく伝える取組を推進。

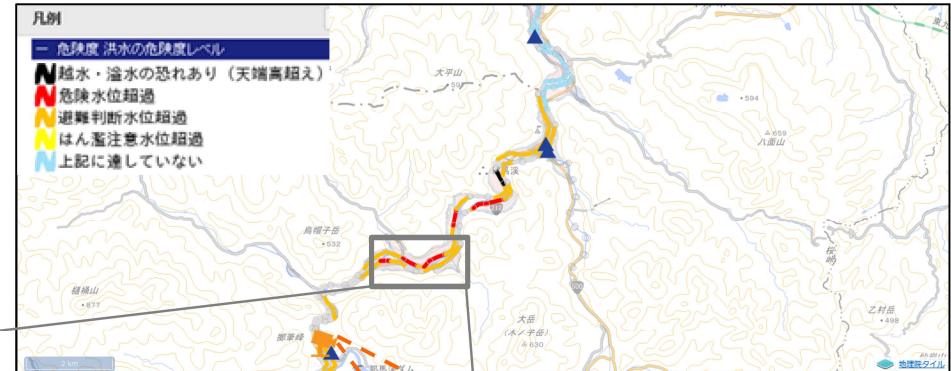
## 水害リスクラインを活用した洪水予報・危険度の表示

左右岸別、上下流連続的に地先ごとの危険度を表示

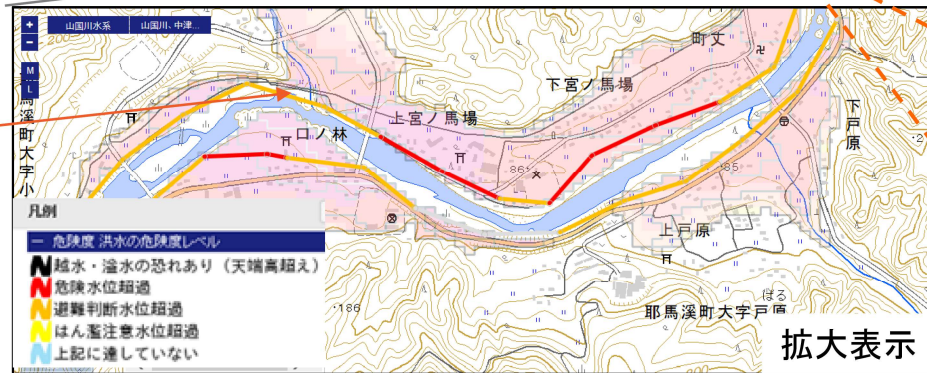
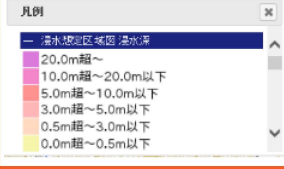
水害リスクラインの表示イメージ(山国川の例)

【平常時】

【平成30年7月豪雨時(再現)】



浸水想定区域図の重ね合わせ



拡大表示



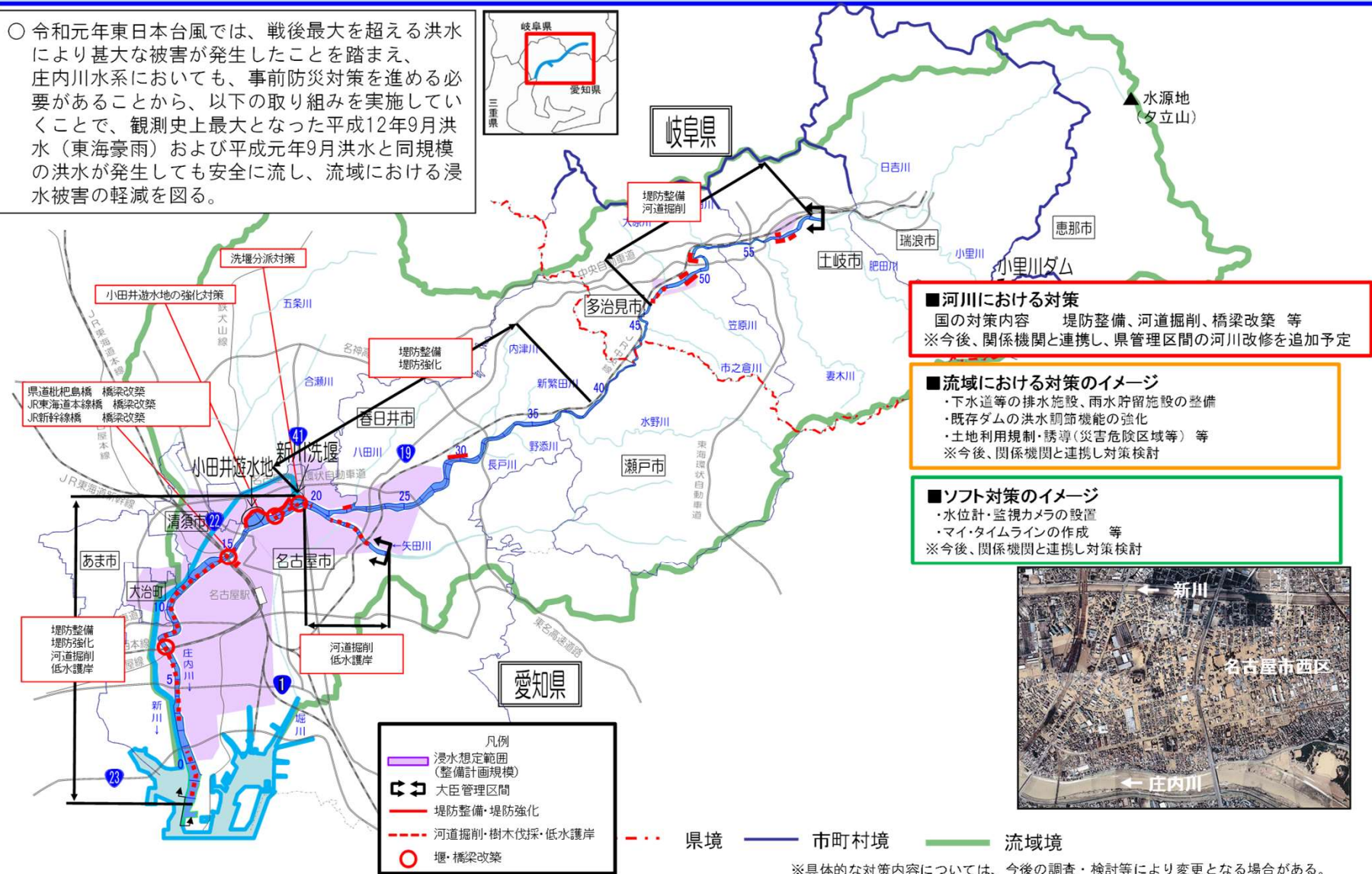
カメラ画像イメージ (ポップアップ)

# 8. 協議会での検討事項と今後の進め方 1/3

## 庄内川水系流域治水プロジェクト【素案】

～東西を繋ぎ、日本経済を支える名古屋都市圏を水害から守る治水対策～

○ 令和元年東日本台風では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、庄内川水系においても、事前防災対策を進める必要があることから、以下の取り組みを実施していくことで、観測史上最大となった平成12年9月洪水（東海豪雨）および平成元年9月洪水と同規模の洪水が発生しても安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

## 8. 協議会での検討事項と今後の進め方 2/3

### 1 リーディング地区での対策検討

- ・まずは、リーディング地区（自治体単位を想定）を決定し、試行的に対策（案）を検討  
※地区ごとに目標と対策を検討

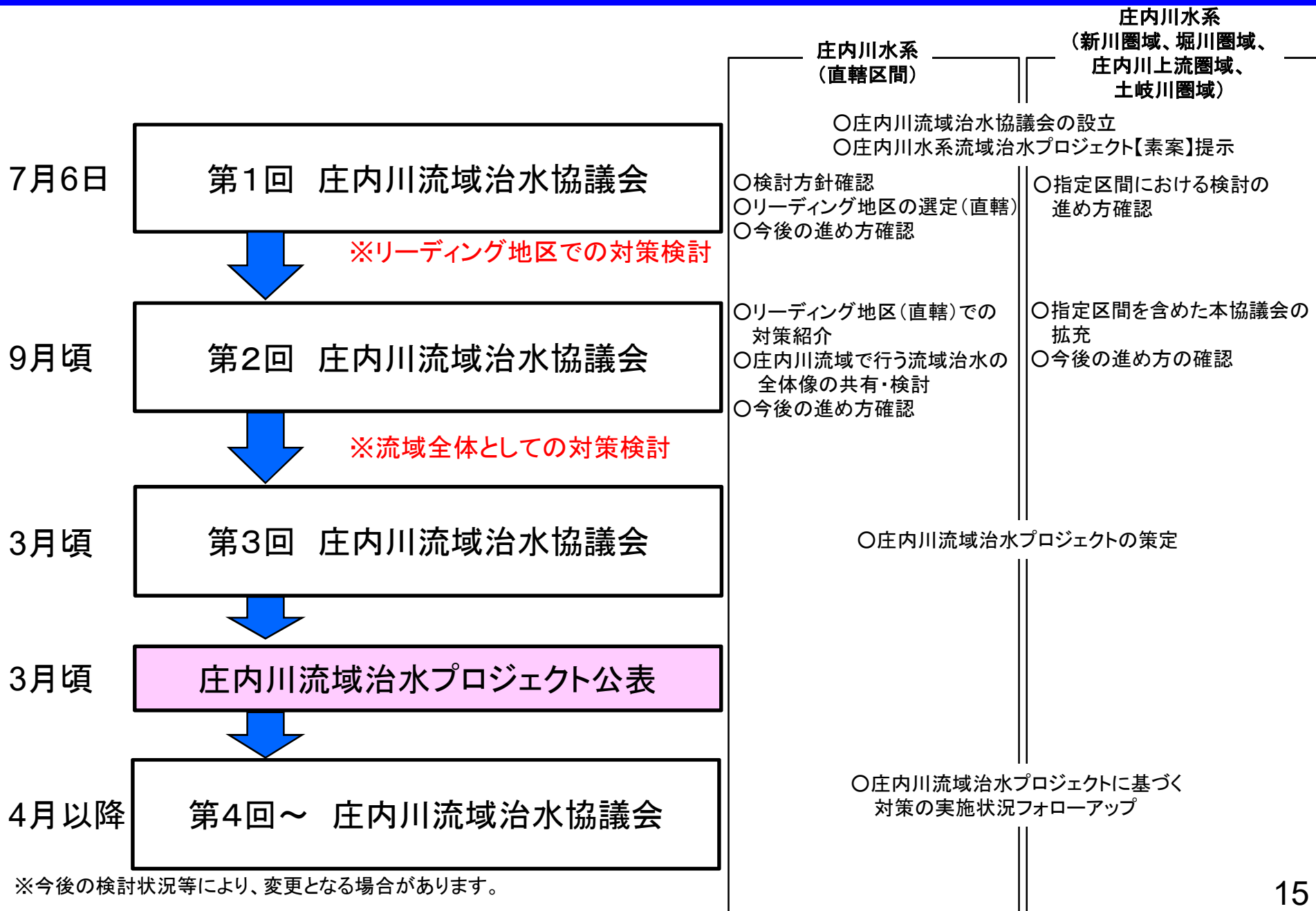
### 2 流域全体での対策検討

- ・リーディング地区での検討結果等を参考に、流域全体での対策（案）を各自治体毎に検討

### 3 流域治水プロジェクトへの反映

- ・各自治体毎に検討された対策（案）を基に、流域全体で取り組んでいく対策を決定し、流域治水プロジェクトに反映

## 8. 協議会での検討事項と今後の進め方 3/3



※今後の検討状況等により、変更となる場合があります。